

## 定植時の花芽分化程度の違いが「とちあいか」の先つまり果発生に及ぼす影響

### 要約

栃木 i 37 号は花芽分化期の定植よりも、花芽分化期から1週間遅らせることで、頂花房収穫始期の先つまり果の発生が軽減した。また、花房間の葉数が減少して、収量が連続し、可販果収量が増加した。

### ○ 展示のねらい

先つまり果は一般的に花の過剰発達が発育を助長すると考えられるため、定植時の花芽分化程度の違いが障害果発生に及ぼす影響を検討し、今後の普及及び栽培技術確立の資とする。

### ○ 主な成果

- ・花芽分化期の定植よりも花芽分化期から1週間遅らせることで、頂花房収穫始期11月のB品(先白果) + 規格外品(先つまり果)の発生率が、71.8%から42.2%に軽減した(表1)。
- ・花芽分化期から1週間遅らせたことで花房間葉数が減少し、可販果収量が増加した(表2)。

表1 B品+規格外品 障害果発生率(%)

|       | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月  | 4月  | 5月  | 合計   |
|-------|------|------|------|------|-----|-----|-----|------|
| 分化期区  | 71.8 | 11.5 | 1.7  | 7.9  | 7.2 | 5.4 | 1.6 | 10.4 |
| 1週間後区 | 42.2 | 8.5  | 19.0 | 10.4 | 5.9 | 6.7 | 0.7 | 10.3 |

表2 可販果収量(kg/10a換算)

|       | 11月 | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 4月   | 5月   | 合計    |
|-------|-----|------|------|------|------|------|------|-------|
| 分化期区  | 461 | 1145 | 1145 | 1205 | 2444 | 1676 | 1392 | 9468  |
| 1週間後区 | 606 | 1244 | 1550 | 1472 | 2479 | 1480 | 1484 | 10315 |

### ○ 今後の方向性

花芽分化期から1週間程度後の定植を推進する。また、栽植密度による果実品質について検討する。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：栃木市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315